

# Nostalgic Hero

Impressive Classic Car Magazine

ノスタルジックヒーロー

TOP ARTICLE ● 特集

Giddy about SPORTY MODELS!

## ときめきの

カローラクーペ・レビン 1600 / サニークーペ 1200 GX-5 /  
ファミリア・プレスト・ロータリークーペ GS / シビック RS 3ドア /  
ランサー 2ドア 1600 GSR / チェリークーペ 1200 X-1・R

# スポーティーモデル

Vol. 154

注目記事

### 衝撃のホンダ四輪車創成期

ホンダS800+S500 / ホンダN360 / ホンダT360 / ホンダコレクションホール所蔵車両

旧車をクールに仕立てる「ハーフィーズ・スタイル」

注目記事

最強のレース組織  
日産ワークス20年の歩み [ラリー編]  
日本レース史の断章 安藤純一

EVENT

オートレジェンド2012  
クラシックカーフェスティバル in 霧島  
クラシックカーフェスタ in 金沢  
裏磐梯クラシックカーフェスタ2012 ほか

# 12

2012 DECEMBER

定価 ● 880yen ● 次号は12月28日発売予定です

## 幻のL型DOHCエンジン TC24を搭載したS30とGC10

1981年にOS技研が開発したL28型用のDOHCヘッド「OS TC24-B1」  
販売台数が10基前後という、当時でも入手が困難な幻のヘッドだった。  
そのため、現存しているのは数基といわれ、実動状態なのは4基のみ。  
そんな幻のTC24-B1の虜になってしまったのが、  
S30Zに乗る富松拓也さんとGC10に乗る片岡功一さんの2人。  
それぞれの思いが詰まったTC24-B1を紹介しよう。

PHOTO : RYOTAROW SHIMIZU/清水良太郎



# OF S30 AND GC10



VOL. 14

NISSAN FAIRLADY Z

● 75年式 日産フェアレディZ

NISSAN SKYLINE 2000GT

● 72年式 日産スカイライン2000GT



**OS TC24-B1 PROS.**

# 憧れのTC24-B1を10年前に入手し トミタク・フルチューンで見事に復活!

NISSAN FAIRLADY Z

●75年式 日産フェアレディZ



OS TC24-B1 BROS.  
OF S30 AND GC10

HOT CLASSIX



③リアスポイラーには、フェアレディZのエンブレムではなく、「OS TC24-B1」の自作エンブレムを装着。ナンバープレートの曲線は、パワーチェックの際のグラフをモチーフにしている。④ホイールはRSワタナベの15インチ。ブレーキのMk63とレース用オープンヨンの車高調は、購入時に付いていたものを使用。タイヤハウスの中までピカピカになっている。

①リスタート製カーボンボンネットの裏には、エンジン搭載とタコ足&マフラーを製作した「長瀬発動機」、ボディをレストアした「ペイント&ボディワークス寺元」、富松さんの「Office Tomitaku」のステッカーが貼られている。その手前のサインは、上がBREのピート・ブロック、下がS30のデザイナー松尾良彦さんの直筆サイン。ここにTC24-B1の生みの親、OS技研の岡崎匠治社長のサインが入れば完璧だが、言い出せない富松さんでした。②ボンネットのヒンジをダンパーに交換。ロッドで支えなくても開いた状態になる。



## OWNER

富松拓也さん(岡山県)

プライベートでTC24-B1を復活させた富松拓也さんは、現在38歳。20歳の頃からTC24を探し、その夢をかなえた。そんな富松さんを支える奥さんの飛鳥さんと、マツダR360クーペがお気に入りのベイビーと記念撮影。このマツダR360クーペも富松さんが手を入れ、ドライブからチョイ乗りにも使えるように仕上げてある。その他にも、友人のクルマの整備やエンジンのオーバーホール、オリジナルパーツの製作などをプライベートで行っている。

<http://www.tomitaku.com/>



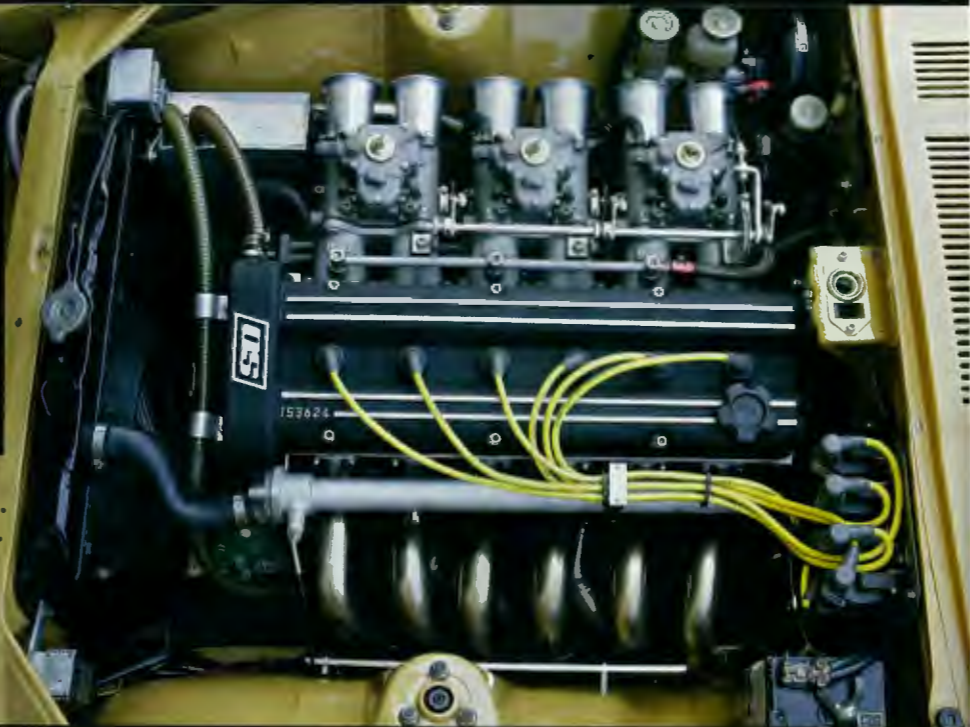
今から10年前の2002年頃。富松拓也さんは、TC24-B1を10年以上探し続けていた。そんな彼の元に情報が入り、バラバラ状態のエンジンと遭遇してしまったのだ。この不動状態のエンジンを手に入れるべく、所有していたクルマをすべて売却し、ついに憧れのTC24-B1を入手。エンジンを搭載するためのS30Zも購入した。

手に入れたものの、欠品パーツが多数あり、バルブガイドにはガタがあり、バルブシートも落ちかかき、ロッカーアームにもキズがあるなど、エンジンの状態も良くなかった。そこで貴重なヘッドから腰下まで、自分の手でOHすることを決意し、04年頃から作業をスタート。エンジンの欠品パーツは、OS技研にも当時のパーツはないため、自作するしかなかったが、それも含めてTC24-B1を復活させる作業は、富松さんにとって楽しみだったようだ。

一方、75年式のS30Zのほうは、旧車のレストアなどの評判が高い「ペイント&ボディワークス寺元」に依頼。TC24-B1の搭載を前提に、フレーム修正、ボディ塗装はく離によるフルレストア、さらに各部の補強が行われた。約1年がかりで完成したサファリブラウンのS30Zのボディは、新車のような輝きを放ち、富松さんも大満足。足の完璧な仕上がりが嬉しかった。

TC24-B1のほうも、05年3月によく完成。排気量は2870ccで、ピストンはLZ16用φ87.8mmピストンを使用した富松さん渾身のフルチューンといえる仕上がりに。排気系は長瀬発動機に依頼し、φ50.8mmのタコ足とφ60.5mmフルデュアルマフラーをワンオフで製作してもらっている。

また、ミッションにも富松さんのア



●05年に復活したTC24-B1が収まるエンジンルーム。エンジンの仕様は、排気量は2870ccで、LZ16用φ87.8mmの鍛造ピストンを使用。コンロッドとクランクはL28型のノーマル加工。カムは、作用角320度、リフト量は、吸排気とも10.5mm。⑥キャブレターはウエーバー50DC01/SPで、ファンネルはトミタク製。キャブの下側にはアルミで製作した燃料デリバリーパイプを装着。⑦ラジエーター横には、キャッチタンクとCDIを装着。ブローパイプには、マエカワエンジニアリング製のレデュサー(クランクケースの内圧コントロールバルブ)を装着する。⑧中央のダンパーブリーは富松さんのオリジナルで、高回転対応だ。⑨美しい曲線のタコ足は長瀬発動機製。点火系は永井電子の同時点火を採用。



⑩入手した当時は、サビや腐りでボロボロだったが、フロアも純正同形状で作り直し、ピカピカの状態。一見ノーマル風だが、純正スピードメーター以外は、タコメーターは1万1000回転まで目盛られたDefi製、ダッシュボードの3連メーターはグレッディ製に変更。左から、油温、油圧、水温となる。⑪シートは、当時物のオートロック製フルバケットを装着。ロールケージはクスコ製で、外と内側から鉄板を挟むように固定している。⑫ラゲッジのフロアもツツツツ。ストラットにはタワーバーとスピーカーが追加されている。



■75年式 日産フェアレディZ (S30)

- エクステリア：ボディカラー／サファリブラウン、ワークス等元フルレストア、リスタードカーボンネット、フロントスポイラー、フロントクリアウインカー
- エンジン：L28改81年式OS技研TC24-B1 2870cc トミタク・フルチューニング、LZ16型エンジン用φ87.8mmピストン、ノーマルコンロッドとクランク加工、オイルパン加工(ハコスカ用→S30Z)、ウエーバーφ50DC01/SP、長瀬発動機製φ50.8mmタコ足 φ60.5mmフルデュアルマフラー
- 駆動系：OS技研トリプルクラッチ軽量特注 S14シルビア用71C用5速クロスをフル加工して71Bのケースに装着 スーパーロックLSD
- 足回り：レース用オプション車高調、ウレタン製バッシュ
- ブレーキ：フロントMk63
- タイヤ：ヨコハマADVAN NEOVA フロント195/50R15、リア205/50R15
- ホイール：RSワタナベ フロント8.0J×15、リア8.5J×15
- インテリア：Defiタコメーター、GRReddy水温計 油圧系 油温計、クスコロールバー、当時物オートロックバケットシート

外観は純正にこだわり、オーバーフェンダーは装着しない。また、サファリブラウンのボディカラーは、街ですれ違ったことがあるZ432のイメージとのこと。



アイデアが生かされている。そのアイデアとは、L型用71Bのケースに、S14シルビア用の71Cの5速クロスを組み込むというもの。これも一筋縄ではいかなかったが見事に完成。2速と3速がダブルシンクロでギアの入りが良くなり、クロスも組めるようになったのだ。そして迎えた05年の夏、いよいよ幻のTC24-B1が復活した。「復活してから7年。あちこち出かけたので、そろそろOHが必要かなと思います。ヘッドのほうはまだ余力があるようなので、腰下を見直してもっと回るようにしたいです」と富松さん。TC24-B1を改良し、夢の1万回転を目指すという挑戦に意欲を見せる。



## OWNER

片岡功一さん(岡山県)

2基目のTC24-B1を手に入れ、クルマ道楽を満喫している片岡さん。息子2人もクルマ好きで、ガレージに止める位置が違い癖で決まるという。そのため、「息子のS15ターボチューンには、父親の威厳で、まだ負けるわけにはいかない」とTC24-B1のさらなるパワーアップに余念がない。今のところ、「ミラーには写らなくなる」というくらい、ブッチギルできている。ただし、ミラーに写る時間が長くなっているのが、少々気になっているとのこと。



①フロントグリルで鮮く赤い「OS TC24-B1」のエンブレム。②RSワタナベのマグホイールは、フロントが8J×15 ±0、リアが8.5J×15 -6。これは、55歳の誕生日に息子さんからのプレゼントだとか。タイヤはアドバン・ネオパの195/50R15を前後とも装着。足回りはビルシュタインのショックに、フロントが8kg/mm、リアが22kg/mmのスプリングを組み合わせている。



OS TC24-B1 BROS.  
OF S30 AND G310

## TC24を1人で2基購入! 瀕死のアクシデントから見事に復活!!

NISSAN SKYLINE 2000GT

●72年式 日産スカイライン2000GT



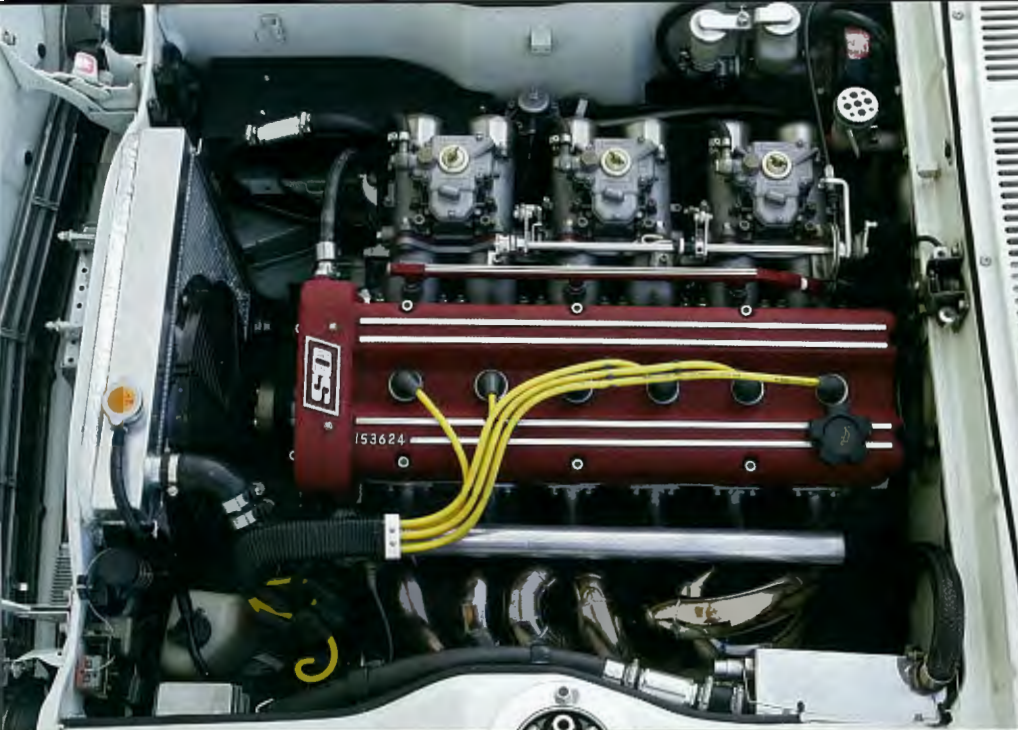
TC24・B1が発売された80年当時に、OS技研から新品で購入した片岡功一さん。当時のことを聞いてみると、「代金先払い、エンジンは完成次第納品という条件でした。ところが、料金は払ってあるのに、いっこうにエンジンが完成しません。しまいには父親に、『OS技研の岡崎社長にタマされてる』とまで言われてしまいました。もちろん、ちゃんとエンジンは完成して、810ブルーバード、S130Zに搭載して走り回ってました」という。ところが、いろいろな事情があって、TC24を泣く泣く手放すことになったのだ。

それから25年後、富松さんが復活させたTC24・B1に試乗させてもらったのをきっかけに、思いが再燃。長瀬発動機の長瀬代表が秘蔵していたシリアルナンバー11番のTC24・B1を、「譲ってください」と通いつめ、06年によく譲ってもらえることになった。

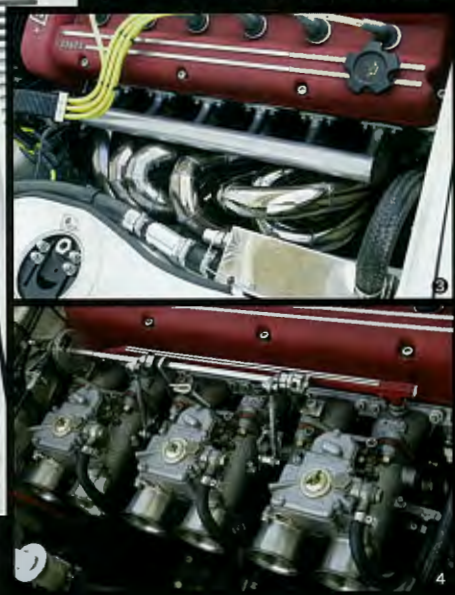
ナンバー11番のTC24・B1は、当時のOS技研が製作した最終号機と思われるエンジンで、82年か83年に製作されて以来、タベット調整を行った程度で、オーバーホールは行われていない。そのため、片岡さんのハコスカには、あえてそのまま搭載。晴れて2回目のTC24・B1のオーナーとなった。

08年10月に、富士スピードウェイで開催される「オールフェアレディズミーツイベント」に参加するため、岡山から出発して約400kmを走行したところで、悲劇が起こった。TC24・B1のインテークバルブが1本折れ、燃焼室内で暴れ回ってしまい、ヘッドにバルブが突き刺さってしまったのだ。

通常のエンジンなら、間違いない廃棄するほどの重傷だが、貴重なナンバー11番のTC24・B1は、富松さんの



⑤長瀬発動機で製作されたφ48mm、6-1集合のタコ足。集合部までの長さは80mmの完全等長。マフラーは、φ80mmのメインパイプで後ろまで引っぱっている。タコ足は、1気筒ずつ重量を計ったところ、1気筒だけ少し重かったので、修正してもらったとか。⑥キャブはウエーバー55DCO1/SPという最大サイズを装着。



トラブルからの復活に合わせて、赤い結晶塗装が施されたTC24-B1が収まるエンジンルーム。インマニから負圧を取っているパイプは、片岡さんのオリジナル。



⑥細かい作業が得意な片岡さんが手を加えた車台プレート。最高馬力「MONSTER」、機関型式「TC24-B1」と記されている。⑦エンジン前方のフロントカバーには、誇らしげに「OS TC24-B1」の文字が浮かび上がる。ヘッドから出ているホースは、フローパイプガスをキャッチタンクに送るためのもの。⑧フロントグリルごしに、タテに置かれたオイルクーラーが見える。オイルの温度管理も、TC24-B1を維持する上で重要なポイント。⑨アルミ製の3層ラジエーターには、大型の電動ファンを装着。ボディとのすき間を埋めて、風の通りを良くしている。奥に見える白いタンクは、リザーバータンク。⑩トランク内の右側には、大径キャブに合わせた燃料ポンプとフィルターを設置。



■72年式 日産スカイライン2000GT (GC10)

- エクステリア：ボディカラー／白、テールレンズ黄色加工、ギャラクシーHID
- エンジン：L28改OS技研TC-24-B1 (シリアルナンバー11番)、OS技研φ89mm鍛造ピストン、IN/EXカムシャフト320度、H断面コンロッド、ノーマルクランク加工、ウエーバー55DCO1/SP、MDI、長瀬発動機製φ48mm 6-1集合等長タコ足／φ80mmマフラー
- 駆動系：OS換研トリプルクラッチ／5速クロスミッション／LSD、ファイナル4.6、アルフィンカバー
- 足回り：ビルシュタイン、フロント8kg/mm、リア22kg/mm
- ブレーキ：フロントMk63、スベアシャルブレンドパッド
- タイヤ：ヨコハマADVAN NEOVA 195/50R15
- ホイール：RS7タナベ マグネシウム フロント8.0J×15-0、リア8.5J×15-6
- インテリア：Defiタコメーター、GReddy水温計／油圧系 油温計、ブリッド・ヒストリックス(ヘッドレスト自作)、自作レース用ワイドミラー



⑩ブリッド製のヒストリックス/バケットシートを装着したインテリアはスバルタンクのもの。写真では見えないが、レース用ワイドミラーは自作だ。⑪インパネ回りは純正を生かし、Defi製のタコメーター、GReddy製の油温、油圧、水温計を埋め込んでいる。ステアリングは定番のダツコンペ。

外観はリアフェンダーをカットしたGT-R仕様。テールレンズのウインカー部分をイエローに着色している。マフラーは、シングルとデュアルを気分によって付け替えている。



手によって見事に復活を果たした。現在の仕様は、OS技研のφ89mm鍛造ピストンとH断面コンロッドを組み込み、カムは吸排気とも320度。キャブレターはウエーバー55DCO1/SP、排気系は、長瀬発動機によるワンオフの等長タコ足&マフラーを装着。最高のパフォーマンスを発揮している。「昔は、違法改造だったせいで、せっかくのTC24-B1を見せびらかせない寂しさがありました。今はL28型の公認を取れば、正々堂々と乗れるのがうれしい。いい時代になりましたよね」と楽しそうに語ってくれた。人生2基目のTC24-B1は、今後もさらに磨きをかけられ、進化することだろう。



Office Tomitaku

# OS TC24-B1はもちろん 修理や開発をこなす夢の工房

①ガレージ内には、富松さんが手がけたS30Zとボルシェ930ターボが収まる。回りにスペースがあるので、クルマをイジったりする広さも十分にある。②ガレージの左側には、旋盤、フライス、コンター、溶接機、ツールチェストなどが置かれた作業スペースがある。③ガレージの右奥にある部屋は、エンジン室になっている。取材で訪問した時は、S20型エンジンとアルファロメオの4気筒エンジンが作業中だった。④作業台の上には、OH中のキャブレターやTC24-B1用のロッカーアームのスペアが置かれていた。

220坪の敷地に建つ母屋は、8部屋もある立派なもの。ただし、築20年が経っているため、住みやすいように徹底的にリフォーム。母屋の前に並んでいるクルマは、今後、修復予定のクルマと、足クルマだ。

2歳になるひとり娘は、マツダR360クーペがことのほかお気に入り。とりあえず、R360クーペの回りで遊ばせておけば、ご機嫌らしい。富松さんのDNAを受け継いでいるのは間違いない。



富松さんのS30Zが収まるガレージは、2年間かけて探した和風建築の豪邸の横に建つ別棟。都内であれば、ガレージ付き物件として十分に販売できる立派な建物だ。

自宅の敷地は220坪もあり、木造2階建ての日本家屋と、重量鉄骨のガレージ兼事務所が並んで建つ。それでも、敷地の約半分は空きスペースとなっている。自宅前には修復中のクルマや普段乗りのクルマなどが並び、来客用の駐車スペースも確保。

ガレージの中に入ると、そこはクルマ好きの夢の空間が広がる。メインの場所にはボルシェ930ターボとS30Zの2台が収まり、右奥にはエンジン室、左側には工作機械が設置されている作業スペースが確保されている。洒落た「Office Tomitaku」の看板横の階段を上った2階は、テーブルセットや本棚のほか、図面を製作するスペースもある。このオフィス・トミタクから、これまで数々のパーツが生み出されているのだ。

## HOT CLASSIC



ヘンカタ・ガレージ

# 醤油醸造所を改造した 親子で楽しむガレージ

2基目のTC24-B1を手に入れ、ますますクルマ道楽にハマってしまった片岡剛一さん。彼の実家はもともと醤油醸造所だったが、その建物を改装しガレージとして使っているのだ。外から見ると、煙突がある醸造所のままの建物だが、中はかなり広く、10台くらいは余裕で入ってしまう広さがある。そのスペースに、親子3人のクルマが収められている。それぞれの駐車スペースは速い順になっていて、1番は今のところ

父親の威厳が片岡さんが守っている。ただし、息子たちも負けたくないようで、S15シルビアのターボチューンで挑んでくる。実際、少しずつ速くなってきているらしく、TC24-B1で負けるわけにはいかないので、パワーアップに熱が入っているのだ。

ガレージの一角には、お宝のTC24-B1のヘッドカバーをディスプレイ。また、整備のための工具や部品、ケミカルなどをストックするスペースもある、うらやましい環境だ。



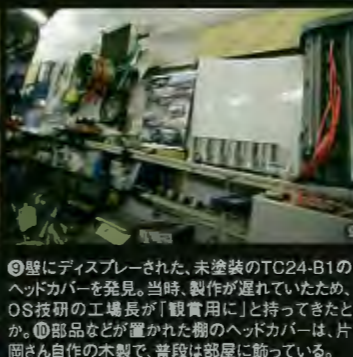
⑤ガレージ2階の一角には、依頼された部品を製作するための図面をひくドラフターが置かれている。⑥中央にはテーブルセットが置かれていて、ゆっくりくつろぐこともできる。あちこちにお宝部品やプラモデルなどが置かれている。仲間とワイワイやるときもあるとか。



## OS TC24-B1 BROS. OF S30 AND GC10



⑦醤油醸造所の中を改装した片岡親子のガレージ。入って右側には、シビック・タイプRやAE86レビンなどが置かれている。⑧左側が、速い順にクルマを置くスペースで、整備中のS15シルビアが場所が、本来のハコスカの定位置。TE27レビンは、片岡さんが30年も所有しているもう1台の愛車。



⑨壁にディスプレイされた、未塗装のTC24-B1のヘッドカバーを発見。当時、製作が遅れていたため、OS技研の工場長が「観賞用に」と持ってきたとか。⑩部品などが置かれた棚のヘッドカバーは、片岡さん自作の木製で、普段は部屋に飾っている。